

想定外事態に際しての食品産業の課題と 将来を含めた対応策について

日 時 : 平成23年9月22日(木) 13時30分～16時30分
 会 場 : **東京八重洲ホール 地下ホール** (東京都中央区日本橋3-4-13)
 参 加 費 : **特別価格 1万円(税込)**
 座 長 : **山野井昭雄 先生 味の素(株) 元副社長**

外向き及び内向きのサプライチェーン対応の問題、電力等エネルギー不足下での安全性をギャランティする商品開発の問題など、従来、食品産業(これは食品産業だけに限ることはありません)ほとんど対応方を考えてこなかったが、しかし今後いつまた大震災に見舞われるかわからない状況を勘案すれば、これは明日の課題ではなく今日只今の課題ではないでしょうか。直近の取り組み状況について解説して頂く。

東日本大震災における我社の対応策と課題

講演 1
13:40
～
14:50

東日本大震災によってあらゆる産業が甚大な被害を受けました。食品メーカーにおきましても被災地に止まらず広範囲で商品生産や流通に大きな影響を受けた事と思います。この想定外の震災が示したサプライチェーンのあるべき姿、更に構築すべき要求が浮き彫りとなったのではないのでしょうか。弊社が受けた現状とその具体的対応において、入手困難な原料代替に伴う品質再設計・食品表示変更・工場生産適性・流通上のフォロー等々を通じて今後の課題を提起し、サプライチェーンの全体最適化を問う。

エバラ食品工業(株) 執行役員 研究本部長 浅野高幸 先生

[プロフィール] 1976年 エバラ食品工業(株)研究所入社、2005年～2009年 中国荏原食品上海有限公司(独資法人会社設立)総経理、執行役員副董事長、2009年4月～執行役員 研究本部長

電力事情の悪化に対応する食品安全への取り組みについて

講演 2
15:00
～
16:10

東日本大震災及び原発事故は全国的な電力不足へと展開し、電力事情の悪化が長期にわたり、電力不足となり生活への影響が大であるとされている。

過剰な節電や突発的な停電は、食品の安全、生産、品質に重大な影響を及ぼす事態の発生の恐れが示唆され、フードチェーンの各段階における対応が求められる。そこで、食中毒予防の原則を再確認するとともに、過去における停電に起因する大規模食中毒の経験を踏まえた対策を検討した。これを踏まえ、電力事情の悪化による食品の安全への影響とそれへの対応について、リスク分析の考え方に基づきこの問題に関わる全ての関係者に提案している。

NPO 法人食品保健科学情報交流協議会 常任理事 北村忠夫 先生

[プロフィール] 1970年宇都宮大学大学院農学研究科修了、千葉県衛生部奉職、01年千葉県BSE対策本部事務局次長、03年NPO法人食品保健科学情報交流協議会設立に参加、04年千葉県退職、オリエンタルランド入社、08年紀文食品入社 衛生顧問(経営企画室品質保証部統括部長)

【座長まとめと質疑応答】 16:10～16:30

お問い合わせ先:

日本食糧新聞社 (食品ニューテクノロジー研究会) 中山/合志

〒105-0003 東京都港区西新橋2-21-2 第一南桜ビル7階

TEL 03-3432-4664 FAX 03-3459-4654 携帯 090-3146-7995